

「土砂災害を経験して」

京都府 舞鶴市立加佐中学校 1年 眞下 隼人

西日本を中心に大きな被害を出した平成30年7月の豪雨で、僕の家が裏山が崩れました。7月の5日から雨が降り続き、大雨となり、舞鶴市にも大雨警報が発令されました。その後も雨は降り続き、7日の午前0時には僕の住んでいる加佐地区全域に土砂災害に関する避難勧告が発令されました。午前1時には大雨特別警報が舞鶴市全域に出されるほど危険な状況でした。

僕の住んでいる加佐地区は中央に由良川がながれています。由良川の氾濫はたびたび体験していましたが、僕の家は由良川から少し離れているので、ここまで水は来ないだろうということで避難をしていませんでした。

僕は弟と寝ていました。夜中の2時ごろに突然、お父さんとお母さんに「危ないから避難するぞ。」と起こされました。

びっくりして外に出ると、裏山が崩れ、お父さんの車が土砂に押しつぶされ、横を向いており、その横には山の上にあった大きな柿の木が立っていました。「ドッドド」という大きな音が聞こえたあと、「ドーン。」というものすごい地響きに驚いて、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さんは飛び起きたそうです。さらに裏山が崩れてきたら大変だということで、みんなで避難することにし、僕たちを起こしに来たのです。

僕たちは急いで逃げる準備をしました。家の前の道路は、川のように水が流れ、激しく雨も降り続いていたので、車で避難しました。

避難所になっていた公民館へ行こうとしたのだけれど、公民館自体がもう水につきそうになっており、とてもそこまでたどり着けそうにありませんでした。公民館の隣の家が少し高いところにあるので、車をそこに停めさせてもらえるよう、お母さんが許可を得に行きました。

するとその家の人が出てきて家に入るよう言うてくださいました。家族みんなで隣の家に避難させていただくことになりました。

僕の家族だけでなく、僕の家近所の人にも危ないということで、お父さんが軽トラックで助けに行き、一緒に高い場所にあるそのお宅に一晩お世話になりました。泊めていただくだけでもありがたいのに、次の日の朝にはその家のおばあさんにおにぎりをいただきました。

親切に対応してくださる人がいることが本当にありがたいと思いました。もし、泊めていただけなかったら、大雨の中、移動するのも危ないし、1つ間違ったら死んでいたかもしれません。

僕は、この経験から、いつ災害が起こるか誰も予想することができないけれど、日ごろから災害の時は、どのような行動をとるか家族で話し合ったりしておくことが大切だと思いました。どこに逃げるのか、どのように行動するのかきちんと把握しておけば、パニックにならず落ち着いて安全に行動できるのではないのでしょうか。

また、大きな台風や災害が予測される時は、前もって避難できるよう準備しておくことも必要だと思いました。そうすれば、すぐに逃げることもできるし、落ち着いて行動できます。

今は、その日の天気などテレビ・ラジオ・インターネットなどから情報を得る手段がたくさんあるので、情報を前もってつかんでおくことも大切だと思います。そうすれば予測ができ、慌てず落ち着いた行動につながります。

僕たち家族は、深夜でも落ち着いて行動できました。事前の話し合いは十分ではなかったけれど、それまでの経験から、逃げる場所は家族みんながわかっているすぐに避難行動をとることができました。また、僕たちの地域は近所の人たちとコミュニケーションがしっかりとれており、災害に遭って、困っているときでも、支えてもらったり、助けてもらったりして近所の人に元気をもらうことができました。夜中に、いきなり「助けてくれ。」と言って来られても、あまり付き合いのない関係だとびっくりして、どうしていいかわからないだけだと思います。けれど、僕の近所の方は、しっかりと対応してくださりました。あの時、もし、あのお宅に泊めていただけなかったら、とて

令和元年度 「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞（事務次官賞）

も危険な状態だったので、死んでいたかもしれません。日頃からの地域のつながりは大切にしていきたいです。僕も地域の一員として協力できるようにしたいと思います。